

週日の説教

金 大烈 神父 2008年8月22日(金)

《心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、愛しなさい》

今日の福音(マタイ 22・34-40)では、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、神様を愛しなさい」という第一の掟があります。これはどういう意味でしょうか？ 皆様は神様を愛していますね。そしたら、どのように愛していますか。心を尽くして神様を愛していますか？

精神を尽くして神様を愛していますか？ 思いを尽くして神様を愛していますか？ もし、これらに対して自信のある答えが出来るならば、私たちは今死んでも天国は私たちのものになります。私たちはいつも「神様を愛しています」と口にしてはいます。しかし、神様が私たちにくださった第一の掟では「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして 愛しなさい、となっています。これは、神様のことを一番大切なものとして考えなさい、ということです。選択をするものとしてではなく、それ以前のものとして、また何よりも優先的なもの、身についたものとして、何があっても、何に対応していても、どんな不安に陥っていても、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、神様を愛しなさいというものです。そのように考えてみると、ほとんどの信者はたぶんこの掟に対して自信をもって「そのようにしています」と話すことはできないのではないかと思います。

イエス様は、旧約聖書全体に流れている掟を簡単に二つに整えてくださいました。

一つは、神様に対する愛、二つ目は隣人に対する愛です。しかし第一の掟である神様への愛をよく考えてみると、本当に難しいです。簡単に神様を愛しなさいくらいの内容ではありません。しかし私たちは、それを掟として受け入れたら実践のために決断をしなければならないことを意識しなければなりません。

二つ目の話ですが、第一の掟と第二の掟は分けられて違う雰囲気がありますが、実際は違う名前の同じことです。神様を正しく愛することになれば、第二の掟は自然にできてきます。また隣人を自分の命のように愛することができれば、そこには必ず神様がいます。

皆様の信仰はどのくらいの深さがあるのでしょうか？ 自分の信仰は深いほうなのか、浅いほうなのか気になることがありますね。その時、この二つの点を考えてみてください。もし自分がかかわっている人を傷つけたり、逆に人に傷ついたりしたら、その人は神様を愛しているとはいえません。人間に傷ついています。神様を愛しています、というのはうそです。それは、私たちが陥りやすい罠です。神様を愛すれば人間も愛さなければならないのです。人間関係には傷ついているけれど、私は毎日祈っているからそれでよい、というのでは駄目なのです。

自分が神様に対してどのくらいの大きさ、広さの愛を持っているかを見るには、第二の掟について振り返ってみる必要があります。いつも傷ついていて、いつも不安で、いつも文句ばかりで、いつも否定的にこの世の中を見ることになってしまうと、その人の中には絶対に神様に対する愛は生まれません。

今日の福音(マタイ 22・34-40)で、神様の掟は二つありますと簡単にいわれていますが、本当はとても難しいことです。私たちが反省をする基準として、第一の掟を選んで第二の掟を選んで同じように通じます。一つが崩れてしまったら、もう一つも崩れます。これは同時に動くものなのです。このように、私たちは少しずつ自分を作って行くのです。完璧に二つの掟を守ることは出来ないかも知れません。ですから、生きる意味も生じるのではないのでしょうか。

信仰を振り返ってみましょう。なぜ福音的な喜びを持つことができないのか。そういう重荷があるとき、この二つの掟についてよく考えてみましょう。どちらかに必ず穴が開いているはず。その穴によって喜びを持ってない自分が見えるはず。その

今日の福音（マタイ 22・34-40）を通して私たちは死ぬまで振り返り、いつも喜びに満たされ、いつも希望を持たなければならないと思います。本当に難しいことです。しかし、そのようになりなさいとおっしゃっているイエス様のみ心を考えながら一生懸命に励みましょう。

ありがとうございました。